資料１

ツシマヤマネコ保護に関する取り組みの概要

ネコ目ネコ科　ツシマヤマネコ
（学名　*Prionailurus bengalensis euptilura*）

絶滅危惧ⅠA類（環境省レッドリスト2012）
平成６年１月に国内希少野生動植物種に指定
国の天然記念物

１．分布及び個体数

- 長崎県対馬のみに分布。
- 生息数は100頭弱（70頭又は100頭）と推定されている。
- 近年は対馬下島での生息情報が途絶えていたが、平成19年3月、自動撮影カメラにより23年ぶりに生息が確認され、その後4地域で生息情報が得られている。

２．形態及び生物学的特性

- 成体の体重3～5kg、体長50～60㎝で、イエネコと同じかやや大きい程度。
- 体全体の斑点模様、額の縞、太く長い尾や耳裏の白斑(虎耳状班)が特徴。
- 夜行性で単独性。出産については、一回に通常１，２頭(飼育下での平均は２頭弱)で、イエネコと比較して少産である。
- もっとも重要な餌はネズミ類で、他に鳥類や昆虫類等を食べる。

３．好適な生息地と生息を脅かす要因

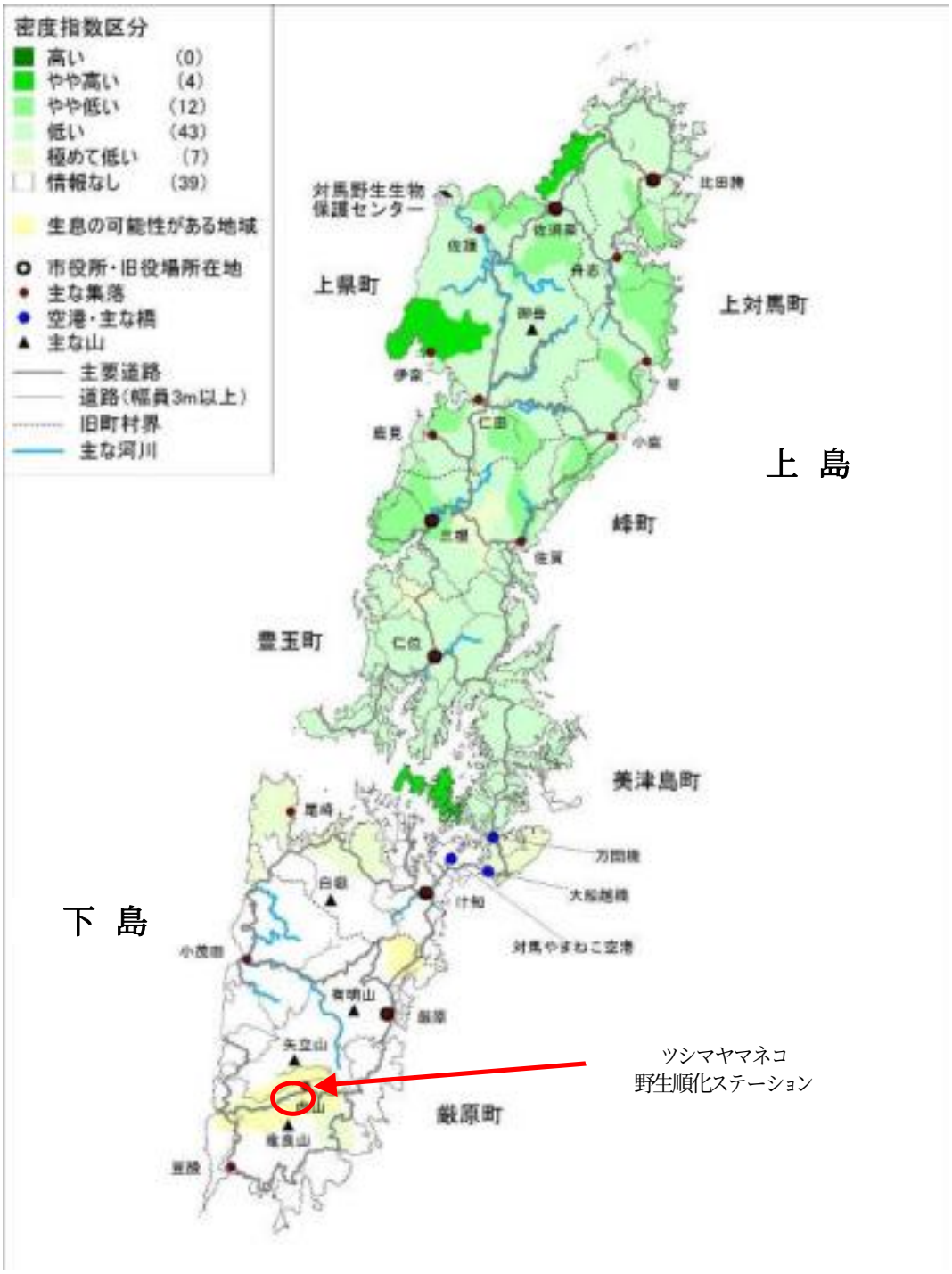
- 森林性で落葉広葉樹林を選好。主として谷筋や低地部を利用するが、集落周辺の田や畑も利用することが多い。
- 好適生息地である落葉広葉樹林が減少した他、間伐の行われていない針葉樹植林が増加した結果、餌となるネズミ類の生息密度が低下したことに加え、河川改修や道路建設などによる生息地の分断、交通事故死が主な減少要因となっている。また、近年イエネコからの病気感染や餌資源の競合も問題となっている。
- イノシシやシカによる植生の変化の影響が懸念される。

４．主な保護対策

- 生息域内における保護対策(好適生息環境の維持・再生、交通事故対策、イエネコ対策、とらばさみ対策　等)。
- 生息域外における保護対策(飼育下個体群の確立、普及啓発　等)　＊5参照
- ツシマヤマネコと共生する地域社会の実現(普及啓発・環境教育、環境と経済の両立、行動計画づくり　等)
- 関係者の横断的連携の促進、科学的知見に基づく順応的管理

資料１

５．飼育下繁殖の実施と飼育分散（2014 年 12 月 8 日時点）

- 平成８年より５頭の野生個体を確保し、平成 11 年より福岡市動物園の協力を得て飼育下繁殖を実施。平成 12 年に初めて繁殖に成功。
- リスク分散のため、日動水の協力を得て 9 園で 31 頭を飼育。5 園で繁殖に取り組んでいる。
- 飼育下個体群の高齢化が進んでおり、繁殖技術の向上や人工繁殖技術の確立などが急務。

６．生息密度分布図（第四次調査）